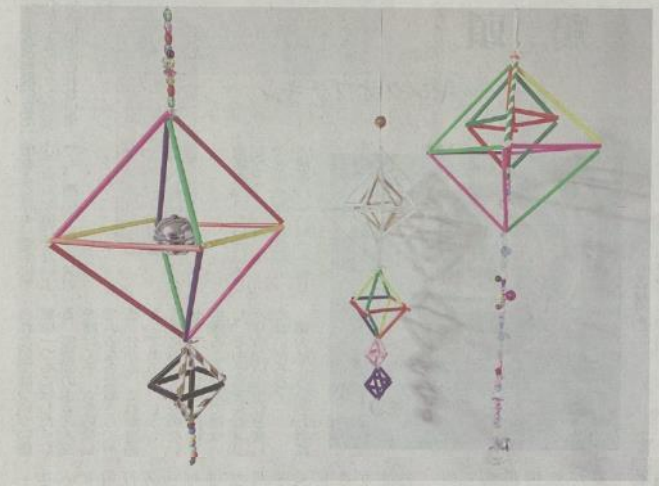
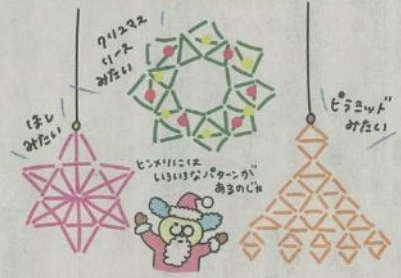
２０２２年（令和４年）　１２月７日　水曜日

デーリー東北　９面　掲載

光のモビール「ヒンメリ」を作ろう☆





アートイズと学ぶ

育てるアート

連載「アートイズと学ぶ　育てるアート」では、八戸市の現代芸術教室「アートイズ」の講師に、子どもがアートに触れる大切さや、保護者はどのようにして子どもの芸術活動を見守るべきかをアドバイスしてもらいます。

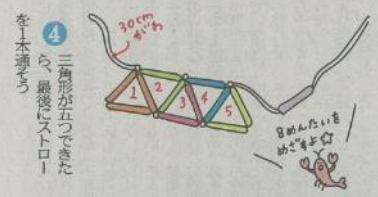
※毎月第１水曜日掲載

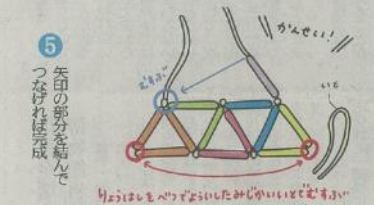
準備するもの

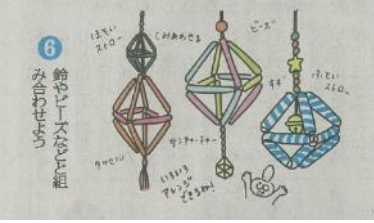
＜材料＞
- ストロー（プラスチックや紙製のもの）
- たこ糸
- 装飾アイテム（鈴、ビーズ、マスキングテープ、ポンポンなど）

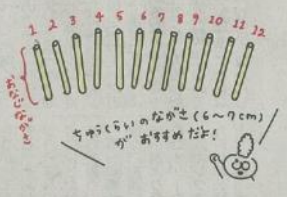
＜道具＞
- はさみ
- 定規

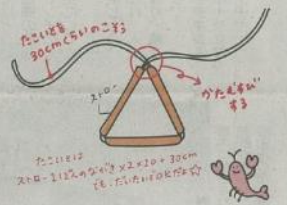
作り方

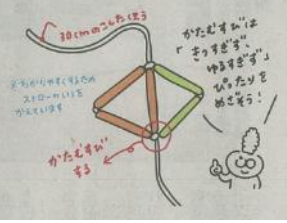












小さな子どもでも簡単にできるヒンメリ

新しい年を迎える準備

1150年ごろから始まったといわれる幾何学模様のモダンなヒンメリ。Himmeliを辞書で引くと「Straw mobile」と出てくるように、わらで作った多面体の飾りをつなげたモビール（動く彫刻）のことを、フィンランドではヒンメリ（天）と呼びます。

幾何学模様の美しさは、日常生活のさまざまな場面で見ることができます。折り紙のくす玉、寄せ木細工、お菓子のコンペイトー、万華鏡やミツバチの巣、トンボの目、ダリアやヒマワリの花など、自然界にも存在している模様です。市松模様などシンプルながら法則性のある並びでデザイン性に優れており、生活を彩る一つのポイントになっています。

ヒンメリは、農作業の閑散期に、身近にある麦わらを用いて新しい年を迎えるための準備として始まりました。日本でも古くから稲わらで生活用具を作り、わらのある生活を送ってきました。その中でも「しめ縄」は、神を祭る神聖な場所を示す標として飾られ、役割が類似しています。

今回は、プラスチックや紙製のストローを使います。1本の糸で12本のストローを一筆書きするように並べてつなぎ、全てつないだら残っている2本の糸同士を結ぶと、一瞬で三次元の正八面体になります。一見複雑な造形ですが、作り始めるとても簡単で、小さなお子さまでも作ることができます。

クリスマスの装飾としてもピッタリなヒンメリ。雪が降り始め、なかなか外に出られない「おうち時間」に、家族とお話しをしながらぜひ作ってみてください。2023年が、皆さまにとってすてきな一年になりますよう願いをこめて。

プロフィル

佐貫巧（さぬき・たくみ）

1982年、静岡市生まれ。多摩美大卒、東京芸大大学院修了。現在、八戸学院大短期大学部幼児保育学科准教授。2014年より八戸圏域で現代芸術教室「アートイズ」を主宰し、アートを通して少しでも生きやすい世の中をつくろうと活動している。おいらせ町在住。

現代芸術教室 アートイズ

アートイズのHPはこちらから

デーリー東北新聞社提供